

ご鑑賞にあたって

- 作品の写真撮影、SNSへの投稿はOKです。ただし、他のご来場者が映り込まないようにご配慮をお願いします。
- 触れる作品については、たいせつにお取り扱いください。
- この展覧会では、さまざまな鑑賞方法や、展覧会場での過ごし方をお楽しみください。
- もぞもぞさんによるナビゲートをご希望の方は、お近くのスタッフに「もぞもぞさん希望」とお伝えください。

もぞもぞする展覧会 しつづける あいだに

寝ころがったり、触れたり、踊ったり、
着たり、話したり、つくったり、休んだり・・・

荒井陸*

中村真由美*

福岡左知子*

舟木花*

宿利真希*

山野将志*

光島貴之

*たんぽぽの家アートセンター HANA 所属アーティスト

配布資料「もぞもぞする展覧会 しつづける あいだに」
音声読み上げ用WEB版



2026年1月6日(火)－1月18日(日)

11:00－18:00 ※最終日のみ16:00閉館

アトリエみつしま Sawa-Tadori

会期中無休・入場無料

「もぞもぞする」ということば、そしてプロジェクトをあらわす「ミミズの糞塚」のイメージをととても気に入っています。ミミズがもぞもぞと地中を動きながら土壌を耕すように、障害と芸術のあいだをめぐるさまざまな道筋を辿りながら「もぞもぞする」プロジェクトに、今回私も関わることになり、一緒にもぞもぞするなかで生まれた糞塚のひとつが、この展覧会です。

「芸術と障害にかかわるひとたちの、アセンブリー」を通して、市民参加メンバーを含むもぞもぞさんたちは、これまでにアクセシビリティの問題、鑑賞の方法などについてのさまざまな試行があり、展覧会はこれらを含めた実践の場ともなります。

なかでも「寝ころがったり、触れたり、踊ったり、着たり、話したり、つくったり、休んだり・・・」といったもぞもぞさんたちの作品への多様な鑑賞アプローチに対して、どのように応えるかは、キュレーションの課題のひとつでした。展覧会では、福祉施設が取り組むコミュニティ・アートセンター〈たんぼぼの家アートセンターHANA〉の所属作家と、本展の会場〈アトリエみつしま Sawa-Tadori〉のオーナーでもある美術家の光島貴之さんの作品から展示構成することになり、準備を進める中であらためて気がついたのは、身体感覚を拡張するような表現の多様さと、制作における協働のあり方についてでした。視覚以外の感覚を表現の頼りとする全盲の光島さんの作品はもちろんですが、たんぼぼの家でも鑑賞する側の感覚を開いてくれる作品に多く出会い、もぞもぞ的鑑賞としても、いやそうでなくとも魅力的な作品選定となったと思いますがどうでしょうか。

また障害のある方の制作における協働は、近代的な自我に支えられた美術家という存在が創作する作品だけが芸術かという問いや、コレクティブな制作の方法についても参照できるものであるように思います。ともあれ私にとって障害のある方の作品のキュレーションは初めての機会でもあり、障害特性と表現との関係など自分のなかではいまだに解決し得ないことも多々あります。しかし、ここに作品はまさに在るのであって、まず向かい合うことが大切なことであるとも考えています。

自身も含めて、障害と芸術のあいだを、関わるさまざまな人やことのあいだをもぞもぞしつづけるなかで、あちこちに「ミミズの糞塚」ができるとよいなという思いを込めて、タイトルは「しつづける あいだに」としました。

本展キュレーター 奥村一郎（和歌山県立近代美術館学芸員）

おくむら・いちろう | アメリカへの移民と美術、近代日本の写真、サウンド・アートなど様々な領域での企画・展示や、「なつやすみの美術館」シリーズなどの教育普及活動に携わる。近年担当した主な 展覧会は、「トランスボーダー 和歌山とアメリカをめぐる移民と美術」（2023）、「なつやすみの美術館12 妻木良三 はじまりの風景」（2022）、「ミティラー美術館コレクション展 インド・コスモロジーアートの世界」（2022）、「島村逢紅と日本の近代写真」（2021）、「特集展示 鈴木昭男 音と場の探究」（2018）など。「もぞもぞする 現場4」で展覧会のキュレーションを担当する。

もぞもぞさん | 「もぞもぞする現場――芸術と障害にかかわるひとたちの、アセンブリー」の市民参加メンバーのこと。"芸術"と"障害"について、問いを共有し共に考える仲間。障害者にとっても、アーティストにとっても、あらゆる人びとにとっても「おもしろい美術館」とは何か？どうしたら、どんなふうに、誰が美術館を変えて行けるのか？を考え、実践している。

荒井陸 あらい・りく | 1995年生まれ。2014年よりたんぼぼの家アートセンターHANA所属アーティスト。「描いている今が楽しくて仕方がない」まわりが驚くほど、のめり込んで制作をしている。決まってみられる「掃除機」は自身の一番お気に入り。長い物と機械音を好む彼にとって、これ以上ない最高のモチーフだ。愛用の画材「マジックペン」で画面全てを埋め尽くし、インクがつきるまで描き味を噛み締める。好きなモノを好きなように好きな方法で描き出す。そこから生まれた表現は独創的で刺激的だ。近年の主な展覧会に「扉をあける」（2023年、大分県立美術館／大分）など。

中村真由美 なかむら・まゆみ | 1985年生まれ。2004年よりたんぼぼの家アートセンターHANA所属アーティスト。カラフルでポップなイラストと、細部にまで描写された絵画たち。そのあまりにも違う作風の振り幅は、別人が描いたような印象さえ受けてしまう。この作風の違いはモチーフの有無によって生まれており、自由に描けばイラストに、モチーフを見て描けば緻密画となって画面に表れる。その他イラストを立体にした張り子を大量に作ったり、毎日欠かさず絵日記を書いたりなど、多岐にわたる創作活動を展開している。近年の主な展覧会に「扉をあける」（2023年、大分県立美術館／大分）など。

福岡左知子 ふくおか・さちこ | 1963年生まれ。1983年よりたんぼぼの家アートセンターHANA所属アーティスト。織りの作品「miamoo.（ミアマウ）」は、大切な人の名前にちなんだ名付けられた。その織りたちは、柔らかで温かみのある雰囲気をもとい、見た人を和ませる不思議な魅力を発している。「元氣かあ?」といろんな人に声をかけては笑顔で周りを気遣い「見て、ええやろ、これ」と自画自賛しながら、作品を生み出している。近年の主な展覧会に「扉をあける」（2023年、大分県立美術館／大分）、「いきいきと解き放つ命の輝き」（2021年、徳島県立近代美術館／徳島）など。

舟木花 ふなき・はな | 1998年生まれ。2017年よりたんぼぼの家アートセンターHANA所属アーティスト。自由な発想と豊かな感性で、様々な素材を使いながら不思議な「アイテム」を作り出していく。ひたすらにシールとテープを張り合わせた箱、絵の具のボトルを何本も使って塗りたくったタペストリー、自身の名前を記し続けた画用紙、、、アイテムができるとそれを身に纏ったり、中をくぐって遊んだりもする。自身の閃きに身を委ねることを楽しむその姿は、人が持つ根源的な創造する喜びを感じさせる。近年の主な展覧会に「関係するアート展 vol.03」（2023年、佐賀県立美術館／佐賀）など。

宿利真希 やどり・まき | 1989年生まれ。2008年よりたんぼぼの家アートセンターHANA所属アーティスト。段ボールで作られた数字や漢字にアルファベット...。これらの作品は彼女の指示でスタッフが作っている。制作中にも細かく指示を出し、出来上がったとしてもイメージと合わなければその場で捨てられることも少なくない。そんなプロセスをへて残った作品だけが、彼女の手にによって仕上げの着色を施され完成する。そしてスタッフのお絵描きスキルも、宿利との制作を経て日々上達している。近年の主なワークショップ、展示活動に「オープンアトリエ inなら歴史芸術文化村」（2024年、なら歴史芸術文化村）など。

山野将志 やまの・まさし | 1977年生まれ。1995年よりたんぼぼの家アートセンターHANA所属アーティスト。植物や動物・昆虫などの生命と対話するように描く。森や空などの自然も全身で感じ取り、力強い線と豊かな色彩を重ねていく。お出かけすること、人とおしゃべりすること、ご飯を食べに行くこと...。すべてが自分を表現する大切なものとしてつながっている。文化施設や公園、企業など、パブリックアートとして各地に作品がおさめられている。近年の主な展覧会に「作ると描く」（2024年、京つけもの西利 本店2F／京都）、「扉をあける」（2023年、大分県立美術館／大分）、「御室芸術祭」（2023年、世界遺産仁和寺／京都）など。

（以上のプロフィールは、たんぼぼの家アートセンターHANAより提供）

光島貴之 みつしま・たかゆき | 美術家・鍼灸師、アトリエみつしま代表。10歳頃に失明。ラインテープやカットティングシートによる「さわる絵画」、手ざわりに特徴のある素材を用いた「触覚コラージュ」のほか、視覚以外の感覚で捉えた街の姿を釘の高低差により再現するなど、新たな表現手法を探索している。2020年にギャラリー兼自身の制作アトリエ「アトリエみつしま」を立ち上げ。バリアへの新しいアプローチを実践する拠点となることを目指して活動の幅を広げている。近年の主な展覧会に「MOTコレクション 歩く、赴く、移動する 1923→2020 Eye to Eye―見ること」（2024年、東京都現代美術館）など。

- ①荒井陸 《青い掃除機・赤い鍵盤・緑の葉っぱ・880・990・248・ピンクのラッパ・黄色い給油機・黄色い掃除機・79・とけい・たいようさん・229・ロディ・黄色いソフトクリーム・黄色いスプーン・標識・鍵盤》 2015 顔料マーカー、キャンバスロール 10230×1800mm
- ②荒井陸 イラストレーション 2014-19 ペン、顔料マーカー、紙など
- ③山野将志 《いものツルのいもの絵》 1997 アクリル、コンテパステル、紙、パネル 1000×1150mm
- ④山野将志 《寝てる仏像》 2011 アクリル、紙、パネル 803×1167mm
- ⑤中村真由美 《水牛》 2013 ペン、アクリル、キャンバス 803×652mm
- ⑥中村真由美 《ヒョウ》 2025 ペン、顔料マーカー、キャンバス 455×530mm

⑦福岡左知子 《miamoo. -ミィアムウ-》 2010-25 340×2630mm 他

- ⑧舟木花 《まる》 2025 折り紙、セロハンテープ、段ボール 525×285mm
- ⑨舟木花 《みどり きいろ》 2025 折り紙、セロハンテープ、段ボール 525×285mm
- ⑩舟木花 《きみどり きみどり》 2025 折り紙、セロハンテープ、段ボール 560×490mm
- ⑪舟木花 《まる きいろ あお》 2025 折り紙、セロハンテープ、段ボール 600×750
- ⑫舟木花 《まるとちっちゃいまるとまる》 2023 制作に使った100均の雑貨のパッケージや折り紙の切れ端、使い切ったテープなど、様々な種類のテープ、千代紙、ゴミ 420×620×350mm
- ⑬光島貴之 《草原》 2019 釘、木製パネル 600×600×100mm

⑭光島貴之 《まなざしNo.5 まちが見ている》 2021 オイルパステル、カッティングシート、ラインテープ、刺繍糸、キャンバス 600×600mm

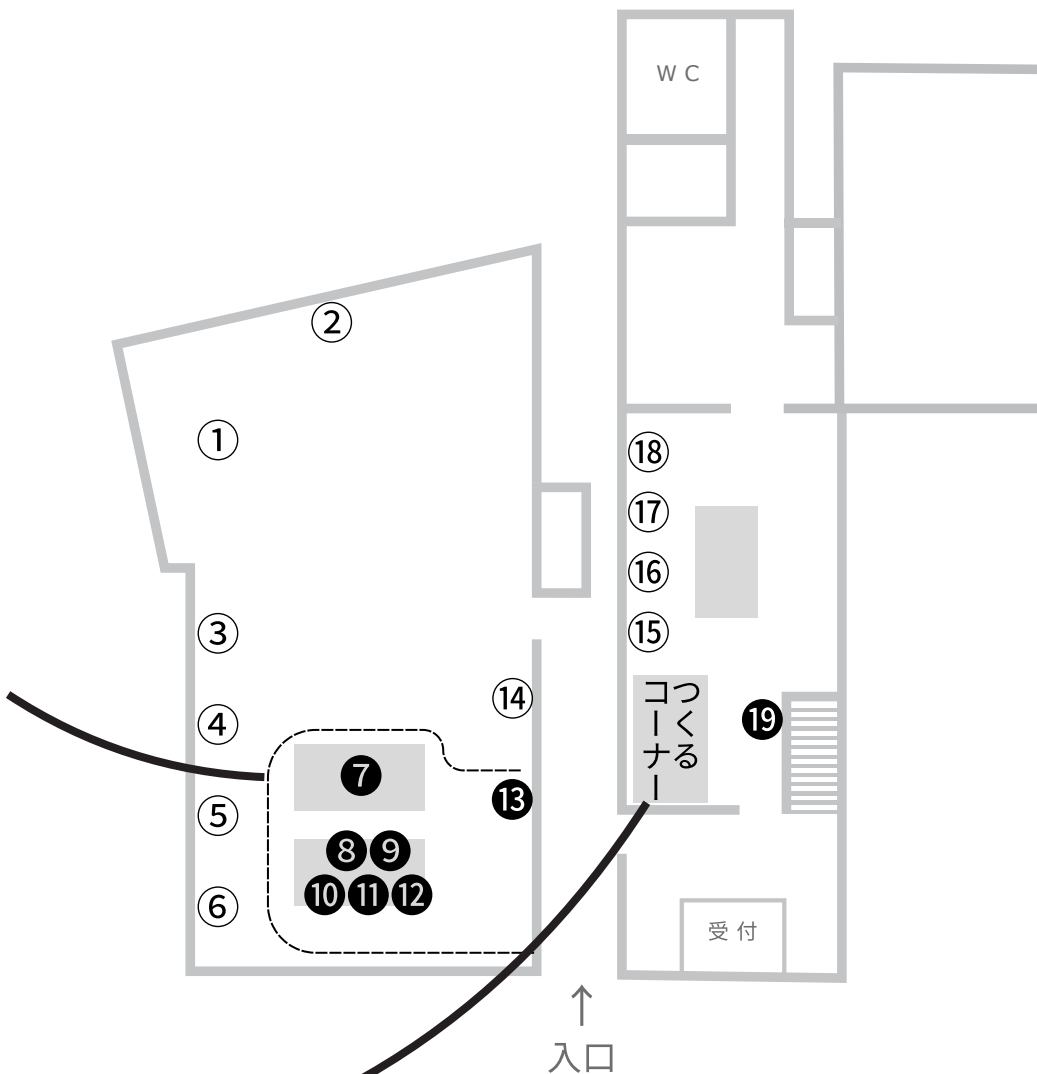
- ⑮宿利真希 《おかめ納豆》 2010-25 紙、ペン、段ボール など 260×150mm程度～350×24mm程度
- ⑯宿利真希 《ひっこし専門|ハトのマーク》 2010-25 紙、段ボール など 270×270mm程度～300×360mm程度
- ⑰宿利真希 《旭松》 2010-25 紙、段ボール など 150×150程度～450×450mm程度
- ⑱宿利真希 《視力検査|ランドルト環・遮眼子》 2010-25 紙、ペン、テープ、段ボール など 80×80mm程度～400×400mm程度
- ⑲光島貴之 《壊れかけた全体を取りもどす》 2024 釘、鋏、かすがい、アクリル絵具、ボンド、ベニヤチップ、OSB合板 160×1600×60mm

寝ころがったり、触れたり、踊ったり、着たり、話したり、つくったり、休んだり・・・

着てみる?

さわってみる?

つくってみる?



⑦～⑬、⑲の作品は、さわってご鑑賞いただけます。